



車いすでゴルフができた
他にも何かできるんじゃないか
そう思えたことが大きい



HITO

田中進一さん (車いすゴルファー)

田中さんがハンディキャップを負ったのは今から11年前。もともとどちらかと言えば偏屈な質でしたが、その当時は暗かったです。と振り返る田中さん。「偏屈だった」という言葉が想像できないほど、今は明るい表情で話されます。

田中さんは、平成10年10月26日、栃木県今市市で開催された、第三回日本障害者オープンゴルフ選手権車いす部門(9ホール)で、17オーバー・54の成績で見事優勝されました。車いすゴルフと出会ってからちょうど1年め。障害を持つ前に趣味程度にゴルフをやっていたそうです。が、それだけに車いすでのゴルフにはギャップを感じたそうです。「練習はどちらで?」の質問に「車いすでプレイできる」ゴルフ場はほとんどありません。常に専用車いすを用意



「ナイスショット!」
7月6日に県営皇妻沼ゴルフ場で開催された障害者交流大会にて。

してプレイできる状態にしていた。けるのは、今市市ウィングフィールDGCだけです。だから、県の障害者交流センターに行くとネットの中で打つ練習をしています。と、バリアフリーの問題をのぞかせながら答えます。障害を持つてすべし、もう何もできない。と、ひどいマイナス思考でした。でもある日スラロームの練習で交流センターに行ったら、障害者ゴルフの大会があるんだと、出てみませんか。と言われるんです。このひと言が、今の私の生き方を導いてくれたんですよ。車いすゴルフを始めてから本当に多くのものを得たそう。交流センターでの練習日に雨が降ると、片腕がない友だちが、俺が傘をさしてあげるよ。と言ってくれるんです。何かにチャレンジしようという気持ちが生えてから、多くの人に会っている。いろいろ話を聞き、とても勉強になりました。とのこと。今は耳の不自由なだけで、少しでも会話ができるように手話を勉強中で、ほかにも俳句などを楽しんでいらっしやいます。車いすゴルフと出会ったことで、新たな人生を楽しもうという気持ちを持つた。という田中さんの今一番の目標は、ボランティアの人たちに感謝しながら、できるだけゴルフを続けていくこと。そしてもう一度あの優勝カップを手にとること。これから目標に向かって、ナイスショットを披露してくれることでしょう。

植物・生き物 / しょくぶつ・いももの



撮影...県生態系保護協会狭山支部・矢内昭夫さん(水野)

さやまの生態系

エソビタキ

(スズメ目ヒタキ科)

全長14・5cm。上面は濃い灰褐色、下面は白色に黒色縦斑が密にある。スズメ大の小鳥で、ロシアの極東地方・サハリンなど北方で繁殖し、フィリピン・スラウェシ島などで越冬します。日本では、旅鳥として春秋に観察されます。平地や低山の林に生息し、近くの小枝の先端にとまり、近くの飛翔昆虫を捕食しては元の枝に戻るという行動をすることから、英語でフライキャッチャーと呼ばれています。

市内では9月中旬から10月上旬にかけて、稲荷山公園・智光山公園などで観察されています。